

登録コード:MH160400 開講年度:2026		授業科目区分	助産師コース 必修
科目名	助産診断・技術学Ⅱ（周産期医学）【20M～24M】 midwifery diagnostics and technology Ⅱ		
担当教員	金井 誠		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/ 4 年 前期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	2 単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	周産期医療の現状と課題を把握し、科学的根拠に基づく助産業務の実践法を理解する。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	助産業務に必要な基本的知識を獲得し、臨床実習でどのように活用したかを説明できる。
	MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	周産期医療の現状と課題を把握し、科学的根拠に基づく助産業務の実践が可能となるための幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得する。
授業で学べる「テーマ」	≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	助産業務に必要な基礎的・専門的な知識・技能を修得した上で、臨床実習における科学的・倫理的・道徳的・創造的な課題克服において、知識・技能をどのように活用したかを説明できる。
	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	助産師資格取得の必須科目として開講する。助産実践の過程を深めるために必要な診断や助産技術に関する知識について理解すると共に、妊産婦を取り巻く最新医療情報について学ぶ。また、長野県における周産期医療提供体制の現状と課題についても学びます。 本授業は、2年次の「母性看護学概論」「母性看護健康論」「母性看護方法論」、3年次の「助産学概論」「助産診断・技術学Ⅰ」「助産診断・技術学Ⅲ」「助産診断・技術学Ⅳ」の知識を前提とし、4年次集中講義の「助産診断・技術Ⅴ」と相補的に学んでいく科目になります。そして本授業の内容は4年次の助産学実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。 本授業は、担当教員の医療機関における産婦人科医としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	4 月に集中講義で18回の講義を行う。集中講義終了後に2回の試験を行う。助産臨床実習期間中に2回の臨床講義を行う。集中講義と臨床講義において、口頭試問を行う。 第1回 4月 9日 ・妊娠と免疫、妊娠成立の機序 (樋口) 第2回 4月 9日 ・不妊症、不育症 (樋口) 第3回 4月10日 ・正常妊娠・分娩・産褥経過と超音波診断 (金井) 第4回 4月10日 ・妊娠期間の異常（早産、前期破水、過期妊娠、等） (金井) 第5回 4月13日 ・多胎妊娠、胎児発育不全、羊水量の異常,等 (金井) 第6回 4月13日 ・母子感染 (浅香) 第7回 4月13日 ・妊娠後期の出血 (浅香) 第8回 4月14日 ・妊娠高血圧症候群 (金井) 第9回 4月20日 ・娩出力・産道の異常 (金井) 第10回4月20日 ・羊水塞栓症、深部静脈血栓症/肺塞栓症、産褥の異常 (浅香) 第11回4月21日 ・回旋異常、胎勢・胎位の異常 (金井) 第12回4月22日 ・FHRモニター・胎児機能不全 (金井) 第13回4月23日 ・妊娠早期の異常 (布施谷) 第14回4月23日 ・血液型不適合妊娠、母子保健 (布施谷) 第15回4月24日 ・母体合併症を有する妊娠・分娩(1) (金井) 第16回4月24日 ・母体合併症を有する妊娠・分娩(2) (金井) 第17回4月27日 ・分娩時合併症（母体損傷、異常出血、産科ショック） (金井) 第18回4月30日 ・産科手術、既往帝王切開 (布施谷) 第19回5月13日 ・試験1 (金井) 第20回5月13日 ・試験2 (金井) 第21回助産臨床実習期間中 臨床講義(長野県の周産期医療の現状と課題) (金井) 第22回助産臨床実習期間中 臨床講義(担当妊婦の分娩経過について) (金井) 授業アンケート 臨床講義は助産臨床実習期間中(6月～8月)に行う。 第21回以降の具体的な日時は、追って通知する。		
授業の進め方	講義形式（オムニバス） 症例発表会形式		
テキスト、教材、参考書	参考書として以下を推薦します		

テキスト，教材，参考書	1. 病気がみえる Vol.10 産科（メディックメディア） 2. 病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺（メディックメディア） 3. 母性看護学②母性看護の実践（メディカ出版）
成績評価の方法	1) 試験1；50点、試験2；50点で総点100点 2) 試験1、試験2の合計得点が60点以上を合格とし、試験1、試験2の合計得点に授業中の口頭試問で最大5点の加点を与えて成績評価点としますが、最高点は100点とします。試験1、試験2の合計得点が60点未満の場合、口頭試問の加点は無く不可とします。
成績評価の基準	成績評価点の判定基準 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」， 応用問題が解ければ「やや上にある」， やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」， 例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」
事前事後学習の内容	[事前学習について] 毎回、次回の授業内容について1時間程度の予習をして授業に臨んでください。 [事後学習について] 毎回、1時間程度の復習をしてください。次回以降の授業中に、前回までの授業の要点について口頭試問を行いますので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間44時間（2時間×22回）+自己学習時間46時間（2時間×23回）＝90時間 ＊以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問は講義中もしくは終了後にいつでもして下さい。 相談などは、金井誠宛にお願いします。 オフィスアワー；随時（要事前連絡） 連絡はメールでお願いします。 makotok@shinshu-u.ac.jpです。